

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 ジェネレーション

5 **変わるべきは大人たちだ**
法政大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 教授
一橋大学 イノベーション研究センター 特任教授
米倉誠一郎

9 **若者は何を求めているのか**
博報堂ブランドデザイン 若者研究所 リーダー
原田曜平

13 データ物語
自動運転システムの普及

14 Taste of the Season
森下典子

16 **首都高HEADLINE**

18 business essay
みんな「終わった人」に
なりつつある……
元産経新聞論説委員
杉本忠明

20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
濱崎景太

22 高速百景 中野正貴

contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 30

首都高名所案内

小菅 拘置所まわりの 川景色

コラムニスト
泉 麻人

小菅というと、やはりまず連想されてくるのは東京拘置所だ。いまは取り囲むように首都高（中央環状線と三郷線）が走っているが、屋上に円盤状のヘリポートが載ったその佇まいは、一見ホテル・ニューオータニにも似ている。

久しぶりにこの周辺を歩いてみよう。綾瀬の駅にやってきた。東武線に小菅の駅もあるけれど、綾瀬の南口か

囲気が留められている。

「モツゴやメダカがいる川を再生するため、ブラックバスやコイを放すのはやめて……」なんて警告も出ていたが、僕も同意見だ。昭和30年代の地図を見ると、この辺りはまだ水田地帯だが、そういう時代に小川でメダカを捕まえて遊んだ世代が川の自然再生事業を引っぱっているのかもしれない。

古隅田川べりをずっと行くと、綾瀬川の水戸橋近くに行きあたる。もとの水戸街道に架けられていた橋だが、いまの橋は付け替えられて、ちょっと迂回するように渡るスタイルになっている。渡った向こう岸の路地の裏へと入っていくと、拘置所の南側の通りに出てきた。

面会所の入口があるこの通りには、「差入店」という独特の店がある。なかに入っている人への「差し入れ」を目的にやっている店で、ひと頃は2、3軒並んでいたはずだが、いまは、「池田屋差入店」というのが1軒、昔ながらの佇まいのままがなばっている。雑誌、ラーメン、スナック菓子、下着……日用雑貨屋といえどそうなのだが、規約でプルトップ式のカンヅメが禁止されているらしく、古風な大型の

桃カンなんか柵にすらりと並べられている感じが妙になつかしい。

ところで、東京拘置所の前身、小菅刑務所が小菅監獄として立ちあがるのは明治の30年代。それ以前は銀座のレンガ街の材料にもなったレンガ製造の工場（後期は囚人たちが作業していた）、江戸時代は徳川将軍が鷹狩りの折に休憩する小菅御殿というのがここに置かれていた。小川と田んぼを見渡す、野趣に富んだカントリーハウスだったのだろう。

ちよつと昔の小菅が出てくる映画に「くちづけ」という昭和32年の大映映画がある。刑務所の面会所で知り合った川口浩と野添ひとみが綾瀬川の伊藤谷橋（水戸橋の1つ上流）脇の停留所から「鹿骨」と行き先を記したボンネットバスに乗車する。

実在した路線なのかどうかは定かではないが、2人が会話する車窓に広がるのかな水田風景は、当時の小菅付近に違いない。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『東京いい道、しぶい道』（中公新書ラクレ）がある。